

いっそう元気！東近江

6月4日（月）に第6回目の「いっそう元気！東近江」を開催しました。

今年度は、これまで話し合ってきたことや、色んなアイデアをもとに、何かひとつでも支え合いの取り組みをカタチにしていく年にできるといいなということを、参加されたみなさんとともに確認しました。

地域支え合いコーディネーターからの情報提供では、東近江市内で見守りや支え合いを広げていくことを目的に市社協が昨年度作成した映像（集いの場編、見守り・生活支援編）の視聴をはじめ、地区における協議体や地域支え合い推進員（第2層生活支援コーディネーター）の設置に向けた取り組み状況の報告、昨年度のいっそう元気！東近江で協議してきたことのふりかえりをおこないました。



（集いの場編の映像視聴の様子）

■グループ懇談「これまで出し合ったアイデアを実現させよう！」

グループ懇談は3つのグループに分かれ、昨年度のふりかえりもふまえ、今年度さらに深めていきたいことや、新たに考えていきたいことなど、具体的にカタチにしていけそうなことを出し合いました。今回、東近江市内にある図書館の職員さんが3名参加されていたこともあり、図書館での業務を通して見えてくる地域の様子、暮らしの様子、図書館ができそうなことなどもお話を聞くことができました。

<1グループ>

■移動図書館をうまく利用できないか…

- ・健康づくりの視点も踏まえて考えると、自宅前まで移動図書館バスが向かうよりは、あえて少し離れた場所に停まり、そこまでは歩いてきてもらうようにしてはどうか。
- ・自宅から外出することが難しい人に、本を宅配する取り組みができるとうい。



■認知症への理解を深める

- ・認知症の方への関わりについて、地域みんなで考える機会を持つ。認知症について正しく理解し、どうすれば認知症の方も一緒に地域で生活をしていけるかを考える。
- ・気になることが出てきた時に、専門職につなぐ。



■つながりの中で困りごとを解決するしくみづくり

- ・地域でどんな困りごとがあるのかを把握（見える化）し、分析してみる。分析ができれば、具体的にどんなアプローチが必要か見えてくる。
- ・地域組織だけでなく、企業なども巻き込み、つながれるような機会やしくみを作っていく。

<2グループ>

■役割を持って活躍できる機会づくり

- ・まち協や自治会の活動が一部の役員の負担になっている。長く活動を続けていくためにも、みんなで薄く・広く役割をシェアできないか。
- ・高齢になっても働ける機会があるといい。内職などの仕事を身近な場所で数人が集まってできる場があれば、仕事もできて、人ともつながれる。



■「助けて!」「できるよ!」の声をひろうしくみ

- ・「助けて」の声をあげられるようなポストの設置。
- ・高齢者にとっても、携帯やスマホが身近なものになってきた。それらを活用し、気軽に「助けて」と言える「高齢者専用 SNS」があれば、気軽に発信できるのでは。

■移送支援の取り組み

- ・移送についてのニーズ把握や、具体化する際の方法整理からはじめられないか。気軽に利用できる移送サービスのしくみづくり。

■集い場づくりの推進

- ・畑をしている人同士で、お互いの畑を見学するなどして、交流やつながりの機会をつくると、生活に楽しみやハリがでる。
- ・趣味や特技を活かした集まり、男性同士の集まりなど、多様な集い場ができるといい。

■ボランティアポイントの導入

- ・ボランティア活動や地域活動への参加が、社会性の維持や健康長寿にもつながっていく。

<3グループ>

■移送の取り組み

- ・有償・無償問わず、移送サービスの見学機会を設けることで、活動をひろげていく。
- ・ちょっとバス・タクシーのあり方について考える。



■おすそわけの取り組み

- ・たくさん収穫できた野菜のおすそわけや、不用品のリサイクルを通して、人と人が出会う機会にもなり、つながりづくりにもなっていく。

■活動のPRに力を入れる

- ・施設の空き車輦を使った取り組みや活動を知る機会づくり。
- ・図書館の喫茶コーナーが、集いの場や人とつながる場になっている。



■図書館の強みを活かしてできそうな取り組み

- ・図書館職員が選んだオススメ本パックのお届け。
- ・図書館の本の宅配サービス。



編集後記

各グループで出ていた話題の中から、具体的に取り組みを進めたいという声が多かったテーマを中心に、今後はプロジェクトチームに分かれ、アイデアの具体化に向けた取り組みを進めていきます。